



# 国労せんだい

## こくろうせんだい FAX版

号外  
2011年4月7日  
発責 橋本 昭二  
編責 武田 昌仙

### 東日本大震災

# 闘争団がボランティア活動に

## 全国連絡会議が決定

# 事務局など八名が石巻へ 自らの生活体制も危うい中で



国労 東日本大地震対策本部 発行の  
に留まり、現地での手伝いが出来なかつたことが悔やまれる。地方本部内の組合員も当然、手伝いたい気持ちはあるが、自分の家庭の事で精一杯という現実と、また一方で鉄道の復興という業務上の使命もあり、中々被災した組合員にしっかりと向き合い、手伝うことが難しいのが実情だ。

4月4日付第43号では、今回の大震災について、闘争団全国連絡会議が、震災に対するボランティア支援を決めたと掲載されている。本当にありがたいことである。私自身も地本橋本委員長と被災地に赴いたが、安否確認と物資配達

## 震災対策本部が激励

### 4日の地本の業務から

朝一番に札幌闘争団から支援カンパの申し出。東京地本からも支援カンパ送付の申し出が。午前中は昨日近畿地本からの支援物資の到着等を種類別、サイズ別に振り分け、必要とする方が選択しやすいように整理。その間、自動車支部の組合員

や退職された先輩が、物資を取りに来られた。午後には本部高橋委員長と東日本本部高野委員長が激励の訪問。お見舞いと激励の言葉が寄せられた。四国地区本部からの卓上コンロとガスボンベと、本部として全国の支援カンパを地本に手渡した。また東日本本部からは激励として見舞い金が贈られた。

う大きな課題を抱え、その実現に向けた取り組みが、政治の不安定な状況が続くチャンスが訪れない中で今回の震災を受け、まさに「頓挫」し、自身の生活自体も危うい環境の中でのこうした取組み（支援カンパ含む）である。お礼の言葉が見つからないのが正直なところであるが、地方本部組織全体として心より感謝とお礼を申し上げたい。

## 仲間のメール報告

ご苦労様です。私事ですが、被災地には3回出向きました。ガソリン・食料等の支援物資を手渡し、津波復旧活動に協力してきました。感じた事は、人手が足りないということでした。3回目出向いたときは、職場の仲間を一人連れて行きました。一人より二人と人数が多い方が支援する側もされる側も心強いものです。

この次は家族で出向き、現状を見せるとともに、被災者を元気づけたい気持ちです。

(5日、山形連合分会の佐藤さんより) 地震以降、初めて小牛田に来ています。駅のホームはアスファルトで綺麗に修理されています。本線には沢山の作業員が復旧工事を行っています。今日から4便だけバスが石巻に行っています。

まだまだガソリンなど不足しているようです。(5日、新庄連合分会の東海林さんより)

## 連絡

地方本部が支社に確認した内容によれば、罹災し住宅に入居の場合、生活用品の貸し出しを受け付けるとのこと。具体的には電気釜、ガスコンロ、湯沸かし器、洗濯機、冷蔵庫等で、必要なものを現場で申し込むこととしている。ただし、こうした時期であり、準備には時間を要することを理解してもらいたい。